

⑨ 小鍋谷工事用道路その4工事における安全対策について

和仁建設(株) 小鍋谷工事用道路その4工事
(工期 平成27年4月 1日～平成27年12月 3日)

現場代理人・監理技術者 ○ 谷崎 ^{たにざき} ^{まさひろ} 雅博

キーワード 施工機械の選定
林道の安全対策

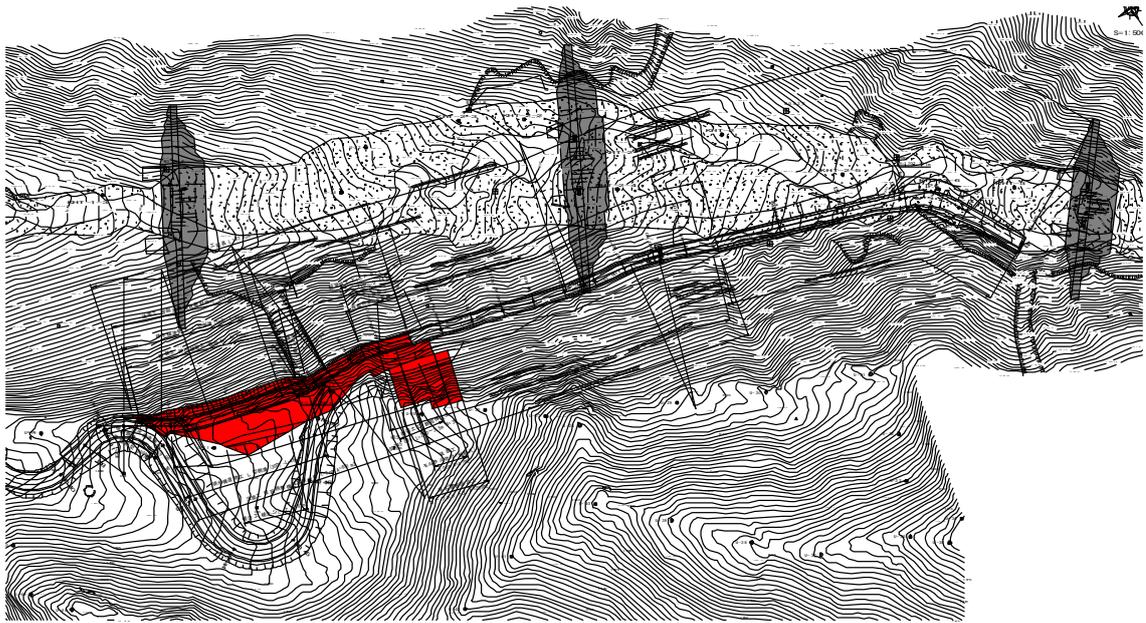
1) はじめに

本工事は、蒲田川上流域右俣谷の支流小鍋谷上流において、下流域で生活する人々や奥飛騨温泉郷および新穂高ロープウェイ等の観光施設に訪れる観光客の生命・財産そして自然環境を、北アルプスの重荒廃地から発生する土砂災害から守るため計画されている砂防堰堤を施工するための工事用道路を新設する工事です。

施工箇所は、中部山岳国立公園に位置し、正面には西穂高岳を背面には笠ヶ岳を望める景観の良い中での工事のため、周辺の自然環境に配慮し工事をおこないました。

2) 工事概要

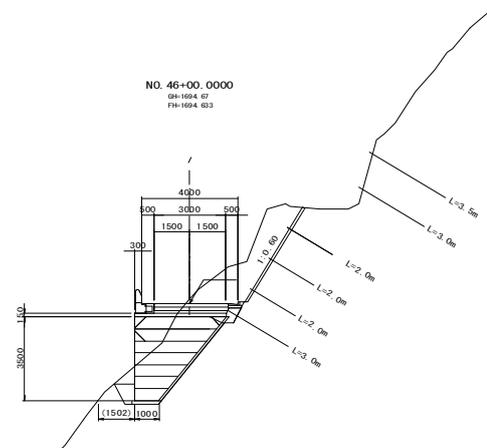
道路土工	掘削工	3,790 m ³
	法面整形工	930 m ³
	残土処理工	1式
法面工	植生シート	90 m ²
	モルタル吹付工	47 m ²
	仮設用無機質基材吹付	795 m ²
	鉄筋挿入工	33本
軽量盛土工	作業土工	1式
	軽量盛土	142 m ³
	壁面材	47 m ²
	コンクリート床版	12 m ³
	鉄筋挿入床板拘束	5箇所
排水構造物工		1式
落石雪害防止工	ロープネット張工	269 m ²
構造物撤去工		1式
仮設工		1式
舗装工		1式
縁石駒止ブロック		9 m



3) 施工機械の選定

軽量盛土工(E P S)の掘削勾配と地山勾配がほぼ同勾配であることから、施工機械(バックホウ)の足場の確保が難しく、E P S工区の最深部(No. 45+14.5前後 H=5.9 m)には崩落跡がありその崩落が大きいことにより、無理に掘削をおこなえば転落の恐れがある。

ロングアームの搬入は、小鍋谷林道の道幅が狭くカーブがきついことにより困難であることから、スライドアーム(0.45m³(最大掘削深さ7.84 m))を用いて施工をおこなったところ、危険も最小限におさえ工程の遅れも無く施工をおこなえた。



4) 林道の安全対策

新穂高ロープウェイ白樺平駅からの林道約4kmは、西穂高岳への登山(ほとんどは新穂高ロープウェイを利用)や新穂高ロープウェイの自然散策路になっている。

この林道は道幅が狭いことにより、工事車両との交通事故やトラブルが懸念されたため、歩行者へ工事車両の通行があることを明示するとともに、工事関係者には、安全に運行するよう指導を徹底し看板により注意を促した。

また、外国人の観光客も多いことにより、林道には間伐材を利用した外国語併記看板(英語・ハンダ語・中国語)も用いた。



外国語併記看板



林道に設置した各種看板



林道中間付近には崩落箇所があり、看板により注意を促すとともに路肩への立ち入りをおこなわないよう柵を設置し、また、変移(滑動)が起これば前後に設置している回転等により確認でき、通行車両および歩行者が安全に通行できるようにした。



○印が
スイッチ

5) おわりに

今後も、危険に対する安全意識の向上に努め、小さな危険を摘みながらよりよい作業環境を築き、常に安全対策に目を向け、『無事故・無災害』に全力で取り組みたいと思います。

最後になりましたが、本工事に対しご指導頂きました監督職員の皆様をはじめ、ご協力頂きました工事関係者の皆様には深く感謝いたします。

